2021
11
Vol. 59

Monthly Report of Faculty of Architecture

東北工大建築学部 通信

Since 1966-2020->>>

発行：東北工大建築学部　学部長　石井敏

Pick Up News

■日に日に秋が深まり冬の足音を感じます。12/22の冬至まで日は少しずつ短くなります。仙台の冬至の日の出は6:50、日の入りは16:21。ちなみに、昔私が過ごした北欧・フィンランドのヘルシンキは、今年の冬至の日の出は9:40、日の入りは14:50です。暗いトンネルの中にいるような冬の時間を思い出しました。太陽を感じ、陽光を浴びることができることはとても感謝すべきことです。明るい時間は積極的に活動し、暗い時間はじっくりと物事に向き合う時間として下さい。今年も残り1ヵ月。1年を振り返り、自身の成長を感じながら、次なる目標を立てる時期としてください。12/18（土）午後には今年最後のレクチャーシリーズ関本竜太さんの講演会があります。住宅設計に興味ある人も多いでしょう。フィンランドの話題も出る予定です。皆さん満足できるお話となること間違いなし。お楽しみに！！

▲卒論中間発表の模様

▲1, 2年生との座談会後の記念撮影

先月号以降の話題を集めてみました。■中村琢巳准教授が所長を務める地域文化財研究所が主催するSDGsワークショップ『かやぶき民家で「ほうき」をつくろう！』を開催しました。■4年五十嵐聖人さんが折り紙で制作した「折り紙照明」が、仙台市太白区秋保町の天守閣自然公園で開催中の「秋保ナイトミュージアム」に展示、その様子が11月6日（土）付の河北新報朝刊に掲載されました。■建築学部学生との座談会を開催しました。総合資格が発刊する建築学生情報誌『アルキテクトン』東北工業大学の次年度版作成にあたり、巻頭特集として企画したものです。この座談会の内容も含めた『アルキテクトン』は来春発刊予定で製作を進めています。■鍵屋浩司教授が11月5日に国土交通省で開催された「専門紙記者懇談会」で研究「超高齢社会における避難技術の開発～介護ロボットを活用した世界初の避難実験～」の成果を報告しました。■11月20日に薛松濤教授が本学の「地域未来学」で「構造物の耐震性能及び構造ヘルスモニタリングシステム」の講義を行いました。■Lecture for young architectsのvol.9は、女性建築家・乾久美子さんの講演会を開催しました。「小さな風景と建築」という題での講演には100名を超える参加がありました。■古川工業高等学校（建築科）の1年生と2年生合わせて約80名の生徒が建築学科を見学しました。■中原大学（台湾）との国際交流プログラムを実施しています。同大とは10年以上にわたり毎年交換留学をする連携をしていましたが、コロナで昨年・今年と行き来ができない状況があります。今回は、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）のオンライン交流プログラムに応募し、採択されたので「卒業設計のクロスエスキース」ということで5回にわたるオンライン交流を実施します。

地域文化財研究所SDGsワークショップの案内▼

3年設計課題の中間発表の模様

台湾の中原大学とのオンライン交流▲

▼乾久美子さんによるオンラインレクチャー

【予告】
Lecture for young architects Vol.10
12/18
14:30～予定
建築家
関本 竜太 さん

学科公式Instagram公開中。建築学科の今を写真で届けています。

Pick Up Lab.

竹内研究室は4年生5名、大学院生2名の計7名が在籍しています。研究室は広々としていて、竹内先生が登米の古民家からいただいた畳がが特徴的です。現在の室レイアウトは4年生が考えたもので、毎年新しく加わる3年生が考え、配置するのが恒例でした。竹内先生はとても熱心に私たちを指導してくれます。しかし話が脱線し、全く違う話になることもしばしばあります。ですが、その中でも新しいアイディアが生まれることもあるので、先生との会話では学びが多いです。来年の3月で竹内研究室は無くなってしまいます。寂しくも感じますが、まずは残りの短い期間を有意義に過ごせるよう研究室一同頑張っています。(4年 髙橋えみり)

竹内研究室メンバー集合写真

竹内研活動風景

4年 大石 葉介 くん
岩手高校 出身

Pick Up Student

僕は四年生になり、改めて自主学習の大切さに気付きました。大学でも課題やテストの ための 勉強はしますが、やはりテストや課題が終わってしまえば継続的に勉強をしない限り短期記憶となってしまい忘れてしまいます。僕は四年生になり資格の勉強を始め ました。その際今まで勉強してきたはずの内容が全く身になっていないことに気づき継続的な勉強の大切さを実感しました。 しかし実際は大学のほかにアルバイトやサークルの活動などがあり勉強の時間を設けることは難しいと思います。なので、勉強した範囲すべてではなく興味のある分野だけでも少しずつ復習などをして知識を深めていければ良いと思います。 知識は無いよりもあるほう が今後 選択の幅が広がると思います。

1年七戸 福蘭 さん
仙台工業高校 出身

Pick Up Student

想像していた大学生のイメージとは違い「大学」という環境に慣れるのは大変で、ただただ高校との相違点を痛感した7ヶ月でした。また、工業高校出身なので専門科目は理解しやすかった反面、教養科目である英語等には苦戦しています。ですが得たものも多く、授業から受けたインスピレーションを次回の授業に活かすことで「出来るようになった」と成長を感じることが出来ました。1年後期の設計の授業は、設計事務所の方からの改善点、アドバイスが現実を突き付けてもらえる貴重な場となっています。「就職後」をより意識した現実的な学びを体感できる機会があるのと同時に、今後の3年間でもっと多く深い情報を自分のものできる可能性に期待しています。